資料２－１

施策調査専門委員会の検討状況について

【 第33回施策調査専門委員会（H27.5.13）】
＜議題＞　１　水源環境保全・再生施策の総合的な評価について
⇒　総合的な評価（中間評価）報告書（案）の検討。
２　次期５か年計画に関する意見項目について
⇒　県民会議として次期計画に関して意見を取りまとめていく際の、項目の検討。

＜主な意見＞

【 議題１ 】

○　緑のダム機能の推移の図に関して、グラフ線の描き方、「公的管理の終了」の文言など工夫の余地がある。特別対策事業による公的管理は、期限で終了するかも知れないが、森林に対する公的補助は一般財源で恒常的に行われている。

○　「未来ある子どもたちに」は、趣旨からすれば「将来世代に」などの表記が良い。

○　「緑のダム」の文言は、洪水防止や渇水防止、自然環境保全の意味も含める場合もあるが、人によって捉え方が異なり、出来れば違う言葉での説明を考えたい。

○　「緑のダム」は、水量の意味合いからくる文言。ただし、森林の機能は、良質な水の確保にとって重要であり、それが前面に出るような言葉を使うと良い。

○　「未来ある子どもたちに～」の本文には、過去10年の成果が最初に少し入っていると、事業の意義も伝わるし、目指す将来にどれぐらい近付いていて、これから何が重要になるのかが分かり今後の話につながる。

○　総合的な評価報告書案のカラー部分について、ワークショップ配布資料にも反映されるので、この段階で見出しやフォントなどの形式面を統一させておくことが必要。

○　ワークショップ配布資料には、評価結果の全体総括や今後の課題など、議論のアウトラインを示すようなものを加えた方が良い。

【 議題２ 】

○　自然再生は、まさに水源に直結する事業だと思う。事業の優先順位としては、山の上から手を打っていくことが質の高い森づくりを進める初めの一歩となる。

○　次期５か年計画に関する論点整理資料について、これからの10年、またはこれまでの10年の中に、第２期から新規に始まった取組に関する見出しがあると良い。また、県民会議意見の資料との対応関係が分かるように表示すると良い。

○　水源環境税以外の事業があって、その中で水源環境税の分がどこに入って、いろいろ出てきている意見がどんなところで出されているかという形のマップが必要。

○　最終目的に関して、良質な水の確保に加え、生態系の保全もしくは水源環境の保全を入れるのが良いかどうかについても議論した方が良い。

○　最終的なアウトカムは良質な水の安定的確保だが、その手前で段階的に生態系の話なども入っている。最終目的の部分は据え置き、その手前のより具体的な評価の仕方などで生態系が保全回復していくプロセスを追うのが実質的。

○　モニタリングの継続は重要だが、個別の事業の成果を表に出すような仕組みをモニタリングでも検討した方が良い。また、水の量が時間を追ってどれぐらい変動しているかのモニタリングも必要。